

平成20年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 平成20年10月29日(水)午後1時30分～

2 場 所 風土記の丘研修センター

3 出席者(敬称略)

(委員) 大隅清陽、齊藤洋子、椎名慎太郎、田代孝、谷口一夫、三井久美子
宮崎秀子、湯川邦夫、秋山教之、篠原誠、長谷川義高

(事務局) 藤原館長、渡辺次長、保坂学芸課長、学芸課員4名、総務課員2名

(教育委員会) 三枝学術文化財課長、学術文化財課員3名

4 会議次第

(1) 開会

(2) 館長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 議事

(5) その他

(6) 閉会

5 会議に付した事案の件名

(1) 平成20年度考古博物館 経過事業について

(2) 平成20年度考古博物館 予定事業について

(3) 平成21年度特別展・企画展計画について

6 議事の概要

(委員)

・学校関係利用で県外校はどこから来ているのか、また、学校利用の内容は。

(事務局)

・県外の学校で利用が多い地域は、東京、多摩武蔵野地域。特に利用の多い学校は、小学校では小平市立校、中学校では荒川区立校。学校利用の内容は、火起こし体験や勾玉づくりをした後、展示見学や、周辺の古墳見学等をしている。

(委員)

・考古博物館のPR方法や、リピーターをつくるような誘客方法を考えているか。

(事務局)

・県内宿泊観光客割引、旅行業者と提携したクーポン発行、各館及び県立4館共通の年間パスポートの発行、県立以外の施設とも相互に割引をする制度等に取り組んでいる。

(委員)

- ・資料p 8の甲府市の遺跡展等、発掘された場所がわかると良い。(現地でも)この場所からこんなものが発掘されたと解るような表示があると良い。

(事務局)

- ・開発にともなう調査なので、現地での看板等の表示はできない場合が多いが、今回の展示では発掘地点の位置図を提示して、出土地を訪れる際の参考になる展示にしたい。

(委員)

- ・学校利用について、県外の教育委員会などにメニュー等を送ったりする営業活動が必要。県内の学校等についても売り込みをする必要がある。

(事務局)

- ・通常の公的広報だけでなく、営業的なことを県立4館合同で行うことも考えている。来年度のメニューを作成して、県内外の学校へ遅くとも2月以前に宣伝したい。
- ・県内の学校については、校長会、教頭会、各地区の教科研究会や高等学校の地歴公民科部会の会議等へも出来る限り売り込んで行きたい。
- ・HPによる宣伝にも力をいれている。本館を訪れた各学校のHPにも、その様子が紹介されており有効な宣伝方法である。

(委員)

- ・4月の「風土記の丘と中道往還」という企画に参加した。桜の花が咲く頃、周囲の遺跡を巡り自然を満喫した。秋の紅葉の頃も、そのような企画があると良い。
- ・県外の友人に『県立施設の宿泊者割引』は好評だった。ただし、交通手段が未整備なので、4館を巡るバスがあったら良い。それも臨時ではなく定期路線があったらよい。

(委員)

- ・県で、観光地を巡る『風林火山号』を運行している。そんなことも検討して欲しい。

(委員)

- ・小中学生に考古博物館に興味を持ってもらうことは重要。体験学習をして、自分が作った勾玉等を手にした感動は将来につながる。

(委員)

- ・大学生に「銚子塚古墳に行ったことがあるか」と聞くと、地元の学生は、学校遠足で連れて行かれたと答える。純粹なうちに連れて行き体験することはよい。県内小学校の利用数は減っているが、小学校の教科書に10年ぶりに縄文時代の学習が復活する。考古博物館にとっては好機到来である。

(委員)

- ・考古博物館でボランティア活動をしている協力会について紹介して欲しい。

(事務局)

- ・考古博物館には、ボランティア団体として、考古博物館協力会の組織がある。約80名が活動をしている。こどもまつりでの各ブースでの運営、来館者のためのショップの運営、特別展での案内など、考古博物館の活動については無くてはならない存在である。

(委員)

- ・地歴科公民科の教員と生徒が博物館を積極的に活用するための取り組みをしている。会議は御坂町の県立博物館を利用することも多い。

(委員)

- ・高校生の博物館利用は「課題学習」での利用が考えられる。考古博物館ではインターシップの実績はあるか。

(事務局)

- ・インターシップ、職業体験の受け入れは積極的に進めている。現在2校を受け入れ、今後も2校予定している。この他、高校生の「課題学習」の受け入れも11月に予定している。

(委員)

- ・「こどもまつり」に参加したことがある。いろいろと楽しめるメニューがあった。釈迦堂博物館からは、イベント案内や無料クーポンなどが届いて興味を惹かれる学校の先生向けにも、こんなことができるという具体的な案内を発信したらよい。

(委員)

- ・開館時間を延長して欲しいという利用者からの声はあるか。

(事務局)

- ・今年度、夏休み期間中に他館で開館時間の延長を試したが、訪れる人が少なかった。今後、他の時期で、開館時間の延長を試すなど検討を続ける。

(委員)

- ・平成21年、山梨で、全国を巡回開催する学会行事である「第37回古代史サマーセミナー」を開催する。考古博物館をコースに入れる予定であり協力をお願いする。